

子どもの発言と授業風景メモ

絵本『七ひきのねずみ』と情報モラル理解

碧南市立棚尾小学校 第3学年3組

指導者 杉浦 真由子先生

実施日 平成19年11月9日(金)

授業を始めるとき、絵本を見せながら、「今日は『七ひきのねずみ』という本を使います。」と先生。

子どもたちは「え～、またねずみ?」「今度は七ひき?」

前もってねずみの出てくる別のお話をされていたよう。一気に興味関心が高まっているのが分かる。

子どもには絵本を見せずに、1ページずつ読み進める。

赤ねずみが出てくると、「赤～?かわい～い」

くねくねへび、と聞いて「こわあ～い」

とがったヤリ、と聞いて「え～こわ～」「ヤリィ～?」

黄色ねずみが出てきて「次は黄色だと思った～、当たった～」

青色ねずみが出てきて「おじさん色だ」「そら色だ」

なわが出てきて「え～?ねずみが怖がるよ～」と、声上がる。

(六匹目まで出てきたところで一旦閉じる)

そして、六匹のねずみとそれぞれが見てきたものを、先生が黒板に貼り出す(あらかじめねずみ六匹とヤリ、縄、扇子等をカラー紙で作って用意)。

子どもたちは、先生が貼るのを見ながら、赤はどれだ、黄色はどれだと口々に言っている。

そこで、先生が「では六匹はいったい何を見たのでしょうか?」と問いかけ。

「え～難しすぎ～!!!」「先生ズルイ～!」と子どもたち。

でも、半数近くが挙手。

先生:「はい。A君!」

A君:「へびの丸焼きですっ!」(笑いが起きる)

A君は自分の想像図を黒板の紙のパーツを組み合わせて再現。

先生:「はい。では付け足しのある人!」

何人も挙手。

B君:「へびだけど、へびの串刺しだと思います。」

前に出て、串刺しのパターンを再現。反対側から串を刺す子も。

先生：「他にはありませんか？無ければ、他の意見はありますか？」

Cさん：「おひなさまだと思います。」

前で、“ひらひらせんす”をおひなさまの扇子に見立ててみる。

先生：「かわいいね。」

Dさん：「ランドセルだと思います。」

くねくねへびが、ランドセルの口金になるように、紙を貼って表現。

Eさん：「私は噴水だと思います。」

F君：「馬〜！」

G君：「斧だと思います。」（賛成派が7, 8人いた）

Hさん：「犬だと思います。使わないのもあるけど・・・。」

I君：「木だと思います。」（彼も、使わないパーツがあっても気にしていない）

そして

Jさん：「象だと思います。」

と言う子が現れた。足は一本しかないけれど象らしきものを黒板上で再現。でも、扇子の使い道は分からない。

先生：「付け足しのある人！」

Kさん：「私も象だと思います。扇子は・・・」

と、耳の位置に貼った。

その後、

先生：「他にも意見がある人は立ってください。」（7, 8人が立つ）

「ろくろっくび」「燃やしているへび」「何でも生える柱」「軍艦と潜水艦がくっついたの」等々。

・・・・・・・・・・・・・・・・（この辺りで授業開始後30分余り経過）

先生：「なんでこんなに色んなものに見えたのかな？では、続きを読みます。」

「とうとう、日曜日・・・・・・・・七番目の白ねずみが確かめに行きました。」と絵本を見せながら読み始めると、すぐに

「そういうことか〜」

「分かった〜」との声、声。

そして、「それをみんな合わせるとっ！」と先生が言いかけると、みんな息を吞んで待っています。

先生：「象だったのです。」（見開きいっぱい象の絵を見せながら）

児童：「スッゲ〜〜〜っ！」「スゴイ！当たった！」「JとK、当てた〜〜っ！」

と、当たったことへの驚きの声。感激の声。ものすごい大発見をしたかのよう。

先生：「白ねずみはなぜ分かったの？」と問いかけ。

子どもたち：「はしからはしまで見たから。」

「すみからすみまで見たから。」

「カラーねずみ達はヒントを出してくれたから。」

「目も大きいし、よく見えた。」

「カラーねずみは一部分しか見なかったけど、白ねずみは全体を見たから。」

と、児童は驚くほど理解を示す。

先生は絵本を一回しか読んではいなかった。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（この辺りで40分経過）

「白ねずみがみんなに教えてくれたことは？」との問いには、

「はしからはしまで、みんなよく見なさい」との答える子有り。

これは絵本の最後に書いてある言葉。先生は一回読まれただけ。集中具合がよく伝わってくる。その一文を先生が読むときは、「み～んな」、と教室全体を見まわしていた。

そして、その教えをB紙に書いたものを貼り出しながら全員で復唱。

「少し見て分かったつもりは・・・・・・・・」（全員）

ここで話しを少し変えて、

先生：「この前、コンピューターをやってね。先生のお洋服を買ったんだけど、実は失敗しちゃってね。」と、ネットショッピングの失敗談を話し、

「こんなのが届いちゃったの」とブッカブカのジャケットを羽織ると

児童：「おばちゃんみた～い！！」「太って見えるよ～」「〇〇先生にあげたら～？」

と大騒ぎ。

失敗の元になったサイズ表示の部分がプリントされたものを出す。

それは非常に小さなプリント。

児童：「見えないよお～」

先生：「そう？じゃあ、これならどう？」と、少し拡大したサイズ表示部分を提示。

児童：「え～、まだ見えない～」

先生：「あれ、そうか～。じゃあ、これなら見える？」と、更に拡大したものを提示。

ようやく一番後ろの席の子でも、LLの文字が見えました。

これによって、“よく見る”という行為が再現される。

先生：「先生はカラーねずみ、白ねずみのどっちだった？」

児童全員：「カラー——！！！」

先生：「どうして？」

児童：「すみからすみまでちゃんと見なかったから！」

最後に紙に「今日分かったこと」を書き込み。

「まさかぞうとは思わなかった。この絵本は勉強になった。端から端までちゃんと見ないといけないと分かった。」

「カラーねずみ達は全体をみていないから象だとわからなかったと思った。白ねずみは全体を見ているからわかるんだよ。」

「白ねずみのように、はしからはしまで見ていないので、6ひきのネズミたちはせんすや柱に見えてしまったと思います。先生もまちがえてしまったところがおもしろかったです。」

「ぼくは、ちゃんと全部みないといけないということがわかりました。先生だって間違えるくらいだから、だれでも間違いはあると思います。ぼくも、文字の抜けたところがあるんで気をつけたいです。」

「今日、絵本で考えることがとてもおもしろかったです。本でカラーねずみはすみまでみてないで、白ねずみはすみからすみまで見たからかしこいねずみだと思いました。またやりたいな。」

子ども達はこのようなことにそれぞれ気づきを持ってくれました。

【授業後の先生の感想】

今後、子どもが一部分だけを見て早合点するような場面がありましたら、「カラーねずみさんみたいになっちゃうよ」というと、さっと理解してくれることと思います。